

- ◆授業日 2022年1月19日(水)予定
- ◆教材名 『私は清掃のプロになる』
- ◆主題 心がこもった仕事
- ◆ねらい 働くことを通じて、喜びや生きがい、社会とのつながりを実感し、社会に貢献しようとする実践意欲を育てる。

- 導入 標題の意味を考えてみよう。

○「私」が「清掃のプロ」とは、どういうことなのだろう？

- ☞・清掃の技術が特に優れている、ということ
- ・清掃の仕事でお金をもらう、ということ
- ↳(清掃の仕事でお金をもらえるようになりたい、という話かな?)

- 範読 (約7分)

- 場面発問

① 帰国直後、清掃の仕事にしか働き口がなかったのはなぜだろう？

- ☞・日本語が十分に話せなかったから
- ・家族全員で働かなければならなかったから(賃金が安いということ)
- ・学歴がなかったから(高校に入学できたのは帰国二年後。事実上、中卒?)

② 新津さんは清掃の仕事を嫌々やっていたのだろうか？

- ☞・はじめは日本語が話せるようになるまで我慢しながら。
- ・仕事が面白いと気付く転機が。きれいになることへの驚きと感動。
- ・体を動かすことが好き。全身がほぐれて元気が湧いてくる。
- ・専門的な知識を学べる学校に、自ら望んで入学。

③ 鈴木先生が指摘した「心のこもった清掃」とは、どんな仕事ぶりを指すのだろうか？

- ☞・お客さんからお礼を言われるような仕事ぶり。
- ・お客さんから認めて(ほめて)もらえるような仕事ぶり。
- ・お客さんと心を通わせられるような仕事ぶり。

- 主題発問

「プロの仕事」とは、どのようなものだろうか？

(あなたが将来就きたい仕事は？)

その仕事の「プロ」はどのような仕事ぶりなのだろうか？)

- ☞・技術が優れていること。技術の向上に積極的であること。
- ・仕事を通して他者と気持ちを通わせ合えること。
- ・自分の頑張りを他者に認めてもらえること。
- ・自分の納得のいくまで頑張ることができること。

- まとめ 感想を書く。T1のまとめの話を聞く。

- ☞・残念ながら今日もなお「3K(暗い、汚い、危険)」など社会的に低くみられている職業が存在する。一方で、そのような職業に従事する人々を正当に評価しようとする努力もある(その職業が社会に不可欠なものだから)。「資格」の設置はそのひとつ。報酬を引き上げ、待遇を改善することも重要。あらゆる場面で「プロの仕事」に日が当たる社会こそ、豊かで公正な社会と言えるのではないだろうか。

◆ふりかえり

- 働くことを通して人と人がつながること、つながりができることが働くことのモチベーションになることを前面にだしたほうが、結末部の感想執筆はやりやすかったかも。
- 教材研究の途中で、新幹線の車内清掃の動画に行き当たった。限られた電車の折り返し時間で、機敏に動きながらみるみるうちにきれいにしていく様子は、確かに職人的。ならば、清掃員は仕事を通して誰とどのようにつながっているのかを考えさせるのもおもしろい。